

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・11〉	いわき市立	豊間	小学校
〈実施日〉	平成 28年 7月 19日 (火)			
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()			
〈実践内容〉	<p>放射線について知っていることを発表する。児童からは、原発事故、食べ物の中にあるぐらいしか出てこなかった。そこで、学校に設置してあるモニタリングポストを紹介し、そこに表わされている数値が何を表しているのかを話した。内容的にはとても難しくはあったが、なぜそのようなものが設置されることになったのかについても話した。次に、原発事故の前にも放射線というものは自然界に存在しており身の回りにもあることを話し、実際にラディールを用いて測定を行った。プールサイドや校庭、教室の値などを比較し、本校は比較的低線量であり安全であることを全員で確認した。しかし、福島県には事故の後、高線量のために立ち入りがいまだにできない地域があったりも入れても高線量の場所があったりすることをパソコンなどで確認した。その中で、自分たちが注意しなければいけないことを話し合わせ、ワークシートにまとめさせた。最後には、原発事故以降の福島県の復興への様々な取り組みについて紹介した。現在も除染活動やインフラの整備が続けられており、最近でも、南相馬市のほとんどで解除になったことなど前向きに今の現状をとらえることができるように締めくくった。</p>			
〈成果〉	<p>実際に、ラディールを用いて学校の様々なところの放射線量を測ることにより、自分たちの身の回りにも放射線が存在することを確認することができた。また、自分たちの学校が、比較的低線量であり安全であることを実感できた。</p>			
〈課題〉	<p>原発事故から五年がたち、子どもたちの放射線に対する意識が薄くなってきていると感じた。今回は、3年生で行ったが、子どもたちは当時、2、3才だったこともあり、ほとんど記憶がない状態であった。そのため、話し合いをしてもどこか他人事であり、どちらかという教師主導の活動内容となってしまった。また、教師の放射線教育に対する経験不足により、子どもたちに難しい話を多くしてしまい混乱させてしまったところもあった。</p>			
資料作成担当者職(教諭)氏名	(谷田部 龍二)		学校電話番号 (39-2050)	

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)